

びいあらいぶ Be Alive!

2015年9月2回号

発行元：パルシステム共済生活協同組合連合会
共済事業部『びいあらいぶ』編集委員会

●次回『びいあらいぶ』は11月3回

被害が出てしまう前に 台風、ゲリラ豪雨に備える。

地球温暖化の影響か近年台風や豪雨が増え、それに伴い被害も多くなっています。自然の力を軽んじた結果、命を落とすケースも。また、家屋への被害もその修復や復旧には手間や時間がかかるものです。まずは被害が出ないように、日頃の備えを再確認してみましょう。

台風による主な被害は、風害と水害です。また、海沿いの地域では高潮や高波の被害も気に掛けなければいけません。台風によるケガの多くは、強風による転倒や飛んできた物に当たったり、屋外でのケースがほとんど。台風が接近してからの外出は控え、水路や海岸に近付くのはやめましょう。また、ここ数年増えているのが「ゲリラ豪雨」ともいわれる局地的な大雨です。短時間の大雨は川や下水の氾濫をひき起こす危険があります。とくに都市部は排水機能が追いつかずあっという間に道路が水没することも。水で足下が見えない状態のときはマンホールや側溝のふたが外れている場合もあるため、水が引くまで歩きまわるのは避けましょう。



台風対策

- ハザードマップを確認
自治体が発行しているハザードマップで、洪水や土砂災害の恐れのある場所を家族みんなでチェック。万が一の避難場所や避難経路も話し合っておきましょう。
- 家の周囲を再点検
屋根、外壁、塀の点検と補強は平常時から行うようにしましょう。窓ガラスはテープを貼るなどして一時的な補強を。また、強風で飛ばされそうなもの(物干し竿や植木鉢など)は室内へ入れましょう。
- ライフラインの確保
停電や断水に備え、懐中電灯やラジオ、非常食、水などの用意を。すでに常備してあるものは、期限が切れていないか定期的にチェックし、入れ替えるようにしましょう。

豪雨対策

- 家の周囲の水はけをよく
落ち葉などで詰まりやすい雨どいや排水溝の掃除は、日ごろからこまめに行うようにしましょう。道路の側溝や雨水ますを植木鉢などでふさいでいないかも確認を。
- 浸水を防ぐ準備
半地下に駐車スペースや玄関がある場合は、止水板の設置や土のうの準備も検討しましょう。屋根瓦のズレなども雨漏りの原因になるので定期的に確認を。
- こまめな情報収集を
パソコンやスマートフォン、携帯電話で雨雲の動きをチェックできるサービスなどを活用し、降雨を事前に察知しておく、避難などの対策がとりやすくなります。

災害を迎える前の対策とともに、万が一被害が出てしまったときのことも考えておきたいですね。